自己評価票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム牛津あしはらの園
（ユニット名）	
所在地（県・市町村名）	佐賀県小城市牛津町牛津80－1
記入者名（管理者）	上別府邦子
記入日	平成 19 年 8 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方とのふれあいを大切に『楽しく、笑顔あふれるホーム』として地域に発信していきたいと考えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも職員が目にすることができるよう、理念を書いたカードを名札に入れている。朝礼の時法人理念を唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や来訪者などに理念を常に見える形でホームに掲示している。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方とは常にあいさつを交わし、畑の活用や花の植え方などの相談にのっていただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元天満町の婦人会などに参加させていただき、グループホームの説明を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	ボランティアなど地域の方々の支援を常々受けているので、もっとホームから地域のためにできることを考えていかなければならないと思っている。例えば、町内会の草取りなど。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	これから評価を活かして取り組んでいこうと考えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去に2回実施しており、委員からの率直な意見をいただいている。月に1度のスタッフミーティングなどにも議題を取り入れ話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小城市報などを持ってきていただいた折に区長と情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が職員に権利擁護に関する参考資料をもとに説明を行った。	○	必要に応じてその都度話し合いをもたなければならないと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	パンフレットなどの閲覧は行っている。	○	これから事例などをもとに勉強会をしていかなければならない。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては重要説明事項に沿い、ご家族に説明同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族でゆっくり面会できるよう面会コーナーを設けており、居室で話ができるよう配慮している。またご利用者の不満など聞いた場合はすぐ情報を共有し、対応を相談している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時職員が必ず声をかけ、現在の状況（身体面も含む）を報告している。1か月以上面会がない場合は電話にて連絡をさしあげている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	5月13日家族会を開催し、業務内容などの説明を行うと共に家族から意見を聞く機会を設けた。また家族などからの意見、苦情を聞くための御意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞き、業務運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事などの計画がある場合は職員の増員を行うなどの勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してから退職者3名、配置転換2名の移動があっているが、退職者は別として、配置転換となった職員は利用者との接点が失われないように、顔を見せに来させるなどの配慮を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足のため研修を受けさせる余裕がないため、経験の浅い職員に対しては、経験豊富な職員の指導により、介護研修を行うと共に資料の閲覧を推進している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関係者の交流会などの開催には積極的に参加し情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	宿直室を職員の休憩場所に指定し、休憩時間における職員の団らんの場所としてストレス解消や意見交換に活用している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日の介護業務日誌の点検、職員からの報告を聞きアドバイスを行っている。また半期に1度の考課評をもとに職員の意識レベルの向上やマンパワーの活用に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護度によって本人の意思表示の度合いが異なるが、本人との会話を通じて意思の確認を行いまた会話が不十分の場合は家族との交流を図りながら、信頼関係を維持するように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の面会の機会をとらえて、家族との積極的な対話を行い、要望・意見の把握に努めると共に、電話相談については家族宅を訪問して直接意見・要望を聞くなどの努力をしている。	○	相談簿の作成

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで相談を受けたことがない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入所であったため不安感からか当初夜間不眠、異食行動がみられていた。しかし職員間で情報を共有し話し合いケアにあたったところ、3週間過ぎた頃から少しずつ落ち着かれ、現在は異食行動もほとんどみられなくなり、睡眠も5～6時間とられるなど馴染まれた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に花植え、畑作り、料理などを一緒に行うなど共に共同しての生活という介護業務を推進している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを図るため5月に家族会を結成した。7月には家族に呼びかけてきてもらい、入所者・職員が合同でそうめん流しを行うなど、コミュニケーションを図ったが、今後もこのような催しを計画していきたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に職員間で家族関係についての情報の共有化を図る。またそれぞれの家族において嫁姑、兄弟関係で問題は様々であるが、職員は中立の立場で支援していかなければならないと考えている。	○	家族関係で問題が大きいと思われる方については、ケアプランにあげ取り組んでいかなければならないと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人施設のショートステイご利用からグループホームへ入所された方には、行事以外でも施設の方を訪問し馴染みのスタッフや仲のよかった入所者と会えるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間で性格の違い、男女関係など様々な問題があるが、それぞれの利用者の性格・行動・言動などを把握し、座る位置などの配置に気を配るなど有効な雰囲気づくりに努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまで3名の退所があっているが、入院のための退所であるため、入院先へ訪問するなど継続を行っている。	○	訪問記録の作成
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務日誌を備えつけ担当者に利用者各人の状況を記録させると共に、計画作成担当者が直接担当者から聞くなどして、思いや意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から本人について詳細に聞き、アセスメントシートに記録し、職員全員が利用者の把握に努め、援助に生かせるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌に詳細に記録すると共に、勤務交代時の引き継ぎを確実に行って、総合的な把握を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月に1回のスタッフミーティングや家族、主治医などからの意見を総合した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者と担当の職員を中心に見直しを行っている。2週間に1回の往診時にも必要時主治医に相談している。家族には往診の結果を詳細に報告するとともに、結果に応じた計画を作成している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランはいつでも職員が自由にみられるよう介護日誌に綴っている。問題が生じた場合も早急に観察を続行し、解決できるよう引き継ぎを行いケアにあたっている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	バスハイク、買い物など外に出る機会を作ると共に、法人施設における行事（踊り、歌謡ショーなど）に積極的に参加させるなど自立支援に取り組んでいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる訪問や区長、民生委員の方々による行事参加があっている。	○	もっと幅広く地域の方々にグループホームを理解していただけるよう、広報活動や地域の行事に参加をしていかなければならないと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	必要に応じてその都度考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議委員である地域包括支援センターの方との情報交換を会議の時に行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの既往や現在の病状に応じて入所時に家族と相談し意見を聞いてかかりつけ医を決めている。協力医療機関の往診以外でも急変時には受診できるような支援を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週に1回のスタッフ会議において、利用者の1週間の状況を協力医・嘱託医に報告しケアのアドバイスを受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護師を配置し、日常の健康管理と医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医・嘱託医を通じて他の病院関係者との連携強化を図っている。法人施設における1週間に1回のスタッフ会議に参加し、協力医のアドバイスを受けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ重度化した場合や終末期の方を看取るケースはない。家族のご要望で協力医療機関への入院の有無について検討する程度である。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	検討中である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	法人内の移動であれば職員間で密な情報交換を行い、馴染みの職員が面会に行き、ダメージ防止に努める。別の場所に移り住む際も訪問を行うなど、ダメージ防止に努める。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を念頭に各職員が日ごろから記録物の取り扱いや、情報の伝達などは細心の注意をしケアにあたっている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事への参加や行いたいことの希望については、日ごろから職員が一人ひとりに聞いている。また意思の表出が苦手な方に対しては時間をかけ、その時に応じて聞き方を変えるなどして対応をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿って日々過ごして頂いているが、その日の体調や気分によってできない入所者もあることから、その人の体調や気分に配慮した支援を行っている。（カラオケなど）	○	レクリエーションの在り方については今後もっと検討していきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を最大限に尊重し、かかりつけの美容院を利用されているが、ない場合は家族に了解を得て出張理容を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員がたてており、おもに食材を切ったり、盛り付けを利用者に手伝っていただいている。また食事前のランチョンマットやおしぼり配りもされており、引き膳は半数の方がされている。	○	食事がおいしいという利用者の声で満足するのではなく、一緒に献立を考え、作って食べる楽しさも味わっていただけるよう支援していかなければならない。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時のお茶の時間では時々飲みたいものを選んでいただいている。おやつは家族からの差し入れが多く、ゼリーなど職員手作りのものもなるべく入れている。	○	焼きもちなどみんなで作ってたべれるものも増やしていきたい。お酒は元日のお屠蘇だけなので、今後検討していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ使用者は日中時間誘導にて排泄を促し、失禁回数を減らす努力をしている。また夏はおむつによるかぶれの問題がある為、排泄時は殿部清拭をそのつど行うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は午後からの入浴が多かったが、暖かい季節になるにつれ午前中でもよいといわれる方が増えたため、現在は午前に入浴となっている。	○	一人ひとりの希望となると職員の手がまわらない場合が多くなるため、実行できないでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中はなるべくソファで休んでいただき、昼食の後は居室でゆっくりと休んでいただくように配慮している。昨夜の睡眠状態やその日の体調にも応じて支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、取り入れ、たたみや食事の準備などできる方には手伝って頂いている。また草花の手入れなども職員と一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでの現金の所持は防犯のためお断りしているが、行事によっては、お預かりしご本人に渡しその場で使って頂くこともある。	○	買い物ツアーなど好きなものを買っていただける行事計画も立てていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、バスハイク、買い物など行うほか戸外散歩を支援している。	○	近所のスーパーへの買い出しに利用者と一緒にでかけるなどの機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度は外へ気分転換のためバスハイクを取り入れる努力はしているが、職員の人員不足により個人的な支援はなかなかできておらず、家族に依頼している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて送ったり、電話をかけてあげるなどの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるようお客様には笑顔でお迎えし、談話コーナーやホール、居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルにある「身体拘束廃止に関する指針」について、職員全員で共有し、ケアを考えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は防犯のため、20時に施錠を行い朝7時に開けている。居室に開閉ストッパーを設置している部屋が2部屋あるが、施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには必ず職員がおり、利用者の状態を把握している。また夜間は転倒の危険性の大きい方を優先にセンサーを設置し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や爪切りは自分で使用できる方には自己管理をしていただいている。包丁などの調理器具やはさみなどの事務用品は所定の保管場所に置いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「安全管理マニュアル」をもとに日頃から事故防止に取り組んでいる。また利用者一人ひとりの状態を常に把握し、情報を職員間で共有できるよう申し送りを行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	誤嚥時の対処の仕方などは、ごく一部の職員しかできない現状ではあるが、昼間は常勤看護師を配置しており夜間については連絡方法は定期的に確認している。	○	応急手当の仕方は看護師が中心となり、勉強会を行っていかなければならないと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に関する地元の方との話し合いはまだ行えていない。火災時の避難方法については、職員間会議を開催しているが実践は行っていない。	○	法人施設の火災訓練の時期に合わせグループホームでも実施していこうと思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や誤嚥など危険性のあることを家族に理解を得、対応策をケアプランのなかで具体的に説明し協力を得ている。例えば、誤嚥予防にトロメリンの使用や転倒予防に介護用靴の使用など。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインのチェックを行い、状態の把握につとめている。変化に気づいた場合は、すぐ看護師に伝え対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者処方一覧表にもとづき毎日配薬の確認、服薬の確認を行っている。薬の変更があった場合はそのつど申し送りノートで伝え、観察やケアの留意点を明確にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	10時のお茶の時間や3時のおやつの時間など食事以外の時も十分に水分がとれるよう工夫している。また日頃から便秘傾向のある方には特に排泄状況に注意し、腹部マッサージや水分摂取を促す声かけなどを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後居室や食堂にて口腔ケアを行っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好みを事前に伺い、食べれない食材の場合は他で補えるように前もって献立を立てるときに注意している。また体重の増減も考慮し、食事の量を決めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルにある「感染症・食中毒の予防・まん延防止に関する指針」に沿って行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生もの以外は2～3日おきに食材の購入をしており、冷蔵庫内のチェックも頻回に行っている。またふきんや調理器具、食器なども消毒を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にはわかりやすいよう甲板を設置し、広い駐車場を完備している。玄関周りは草花を植え、明るい雰囲気に心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・ホールには自然光を取り入れられる天窓があり常に明るく、ホールには花が飾られ、食堂からも中庭の花々が見えるような工夫がなされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファがあり、ゆったりとくつろげる場所となっており、食堂においても4つのテーブルがあるため利用者同士、あるいは職員との語らいにも十分な広さである。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には使い慣れた椅子が置かれていたり、家族の写真などが飾られている。また仏壇を持ってこられている方もおられる。ベッドでの生活が苦手な方には、フロアーを畳敷きに替えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温・湿度計をホールに設置しており、定期的にチェックし温度調整を行っている。またトイレは24時間空調換気システムにて調節されている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーとなっており、居室のドアなども開閉しやすい引き戸を多く取り入れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋がわからない方のためにドアノブにリボンをかけるなどの工夫を施し、トイレや風呂場など表示がなされている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関から外へもバリアフリーになっており、食堂からウッドデッキに至っても段差なくそのまま外へ出られるようにしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・　部屋が広々として明るく、開放感があり伸び伸びと過ごしやすい。また小規模多機能型ホームはホールや畳コーナーもあるため、利用者同士での語らいの場が多く確保できている。
・　誕生会などの祝事には家族に呼びかけ、一緒に食事をしてもらうなど、家族との団らんの場を多く取り入れるようにしている。またグループホームは小規模多機能と併設しているため同多機能の利用者・家族にも参加を呼びかけると共に職員の寸劇やカラオケなどの余興を行うなど、入所者・家族・職員が一体となって和気あいあいの場づくりを行っている。
・　２４時間を通じて利用者を把握できる勤務体制を計画し、常日頃各々の職員が気づき、感じたことについて情報交換を行うなどして入所者のケアなどに生かしている。